第1号様式
所属進行表

業務運営進行表

（平成２６年４月１日～平成２７年３月３１日）

	局名	部名	室・課（出先は所属）名	所属のホームページ
所属	教育局		平塚江南高等学校	http://www.hiratsukakonan-h.pen-kanagawa.ed.jp

Ⅰ　業務概要

全日制の課程　普通科

本校の校名は、相模川を長江になぞらえ、中国の江南地方に因んで命名されました。
校章は上半分が桜花を表し、下半分は近くの花水川に由来する流水紋です。
平成２３年には、創立９０周年を迎えました。

Ⅱ　収支の状況

（単位：千円）

			第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	出納整理期間	累計
収入	収入科目	年間計画額	収入済額					
	使用料及び手数料	691	89	8,952	19,665	10,199	6	38,911
	諸収入	324	67	77	81	90	6	320
	その他	17	5	3	1	3		12
	収入計(A)	1,032	162	9,032	19,747	10,291	11	39,243
支出	項目	(再)配当額	支出済額					
	事業経費 事業費	30,180	799	1,425	15,876	11,854	226	30,180
	事業経費 維持管理費	20,589	1,624	6,222	4,683	6,069	1,991	20,589
	事業経費 計	50,768	2,423	7,647	20,558	17,923	2,217	50,768
	人件費　（注１）		179,547	119,743	185,619	125,799		610,708
	支出計(B)		181,970	127,390	206,177	143,722	2,217	661,477
	差額(A)-(B)　（注２）		△ 181,809	△ 118,358	△ 186,430	△ 133,431	△ 2,206	△ 622,234

（注１）人件費には職員数に共済費及び退職手当の平均単価を乗じて算出した共済費相当額（事業主負担分）及び退職手当相当額が含まれています。
（注２）差額の△(マイナス)には、県税や県債、国庫支出金等を充当しています。
（注３）各項目毎に千円未満四捨五入を行っているため、各計欄は各項目を合計したものと一致しない場合があります。

Ⅲ　職員配置状況

	区分	４月１日	７月１日	10月１日	１月１日
配置職員数	常勤職員	60	60	60	60
	上記以外の職員	34	34	34	34
	計（人）	94	94	94	94

Ⅳ　業務実施状況

１　生徒数の状況（平成２６年４月１日現在）

		１年	２年	３年	合計
学級数		8	8	8	24
生徒数	男	167	152	160	479
	女	157	169	153	479

2　年間行事予定

(4月）入学式　新入生オリエンテーション　2･3年遠足　（5月）3年実力試験　陸上競技大会　前期中間試験(6月）中学生向け学校紹介　1・2年教育課程説明会　2年進路講演会　3年前期期末試験　（7月）体育祭　夏季講習(8月）学校説明会　1年進路講演会　（9月）1･2年前期期末試験　3年実力試験　球技大会(10月）1年遠足,2年修学旅行、3年実力試験、入試説明会、、文化部発表会(11月)実力試験　後期中間試験(12月）入試説明会、冬季講習　（1月）1年百人一首かるた大会　（2月）1・2年実力試験　合唱コンクール　学年末試験　（3月）卒業証書授与式、1･2年球技大会

3　進路の状況

		23年度	24年度	25年度
卒業者数		317	316	314
進学	４年制大学	241	233	228
	短期大学	1	3	3
	専門学校・各種学校	2	0	1
就職		0	0	0
その他・進学準備等		73	80	82

Ⅴ　業務運営に関する評価

1　平成26年度の学校目標

（1）学力向上進学重点校として、生徒の進路希望の実現に繋がるバランスのとれた内容の教育課程を編成する。

（2）教科指導・生徒指導･進路指導が一体となった取組をさらに推進し、生徒一人ひとりを支えるきめ細かな支援体制を充実させる。

（3）組織的な授業改善への積極的な取組をさらに推進し、生徒の高い志を持った進路希望の実現に繋がる質の高い授業をめざす。

（4）キャリア教育の視点に立った組織的な進路指導体制の充実を図ることに加え、社会のルールを遵守する態度と豊かな人間性を育成する。

（5）広報活動を積極的に行い、地域等との連携を図りながら、地域と共に育つ開かれた学校づくりを推進する。

（6）生徒・保護者・地域の期待に応え、信頼される学校を目指したマネジメントを推進する。

2　平成26年度の学校目標の評価

（1）
○平塚江南高校の現状分析による成果と課題を把握し、中長期的な展望である「江南高校の今後のあり方」を示すことによって、全職員で進むべき方向性を確認することができた。
○さまざまな入試分析研究会に参加することによって、最新の入試動向を共有化し、還元することができた。

（2）
○学習指導・生徒指導・進路指導の一体化した取組を強化することができた。
○「アセスメントを活用した学力向上及び進路実現への取組」の図によって、取組の方向性を共有化した。また、定点観測による的確な分析報告会、エール交換、部活動顧問からの声かけ等により、高い進路実現に向けてチーム江南としての最後まであきらめない団体戦意識を向上させることができた。

（3）
○教員相互の授業参観、公開研究授業と研究協議会などの実施、生徒による授業評価の結果の活用などによって組織的な授業改善を一層進め、質の高い授業を展開することができた。
○公開研究授業、研究協議会を充実させることによって、本校の学力向上進学重点校としての取組をより一層外部に発信することができた。

（4）
○外部との連携を進めたことや、日頃の生徒指導、生徒会活動や体育祭等の学校行事によって豊かな人間性や社会性を高めるキャリア教育をより充実させるものとなった。
○生徒の課題解決力や表現力等を育成する場が少ない。そのため「総合的な学習の時間の基本方針」を「江南高校の今後のあり方」の枠組みの中の１つとして作成し、総合的な学習の時間が、キャリア教育の４つの基礎的・汎用的能力を育み、グローバル人材育成の根幹となるようにした。

（5）
○ＰＴＡ、同窓会、学校が一体となって生徒の成長のために連携して取り組むことができた。
○保護者向けの公開授業や学校説明会について、満足度も高く成果を上げた。

（６）
○アンケート結果により、ニーズの的確な把握に努めた。改善すべきところは、常に生徒の成長のために何ができるかという視点を持って対応していく。
○コンプライアンスの徹底を図り、事故・不祥事防止に努めた。

連絡先（電話番号）	（0463）31-2066